



はこえて二人の恋の道行
湯気のむこうに見え隠れ
げに恐ろしき苦界の身の土
二分やぎは五里霧中

小腹が空いたら三分間の恋

彼女と俺は、カップ麺を食べた。
「今の話って重要？」
彼女はスープに沈んだ具を箸で探っている。
「……たぶん」
「わかった」
隣へ寄り添い、俺に笑顔を見せた。
「説明するけど、その前に、おいしかったかどうか教えてくれる？」
彼女の顔が近付いてくる。カップ麺が伸びることは、おそらくもうないのだから。

キッチンにカップ麺の容器が二つ並んでいる。
「おまえの彼女」
友人は腕時計を睨んでいた。
「俺の元カノなんだ」
「はあ？」
「むこうの浮気で別れた」
がむしやりに友人は、カップ麺を食べ始めた。容器の中で俺のカップ麺が伸びる。
俺が、三分ちようどのカップ麺にありつく日はやってくるのだろうか。

小腹が空いたら三分間の恋

カップ麺が伸びる条件は以下の通りである。
キッチンに立ち、彼女は紅茶を淹れていた。
購入したケーキはひとつ。俺は甘いものが苦手である。
しかし、小腹は空いていた。
ケトルの湯を相伴し、カップ麺の容器に湯を注ぐ。
「そういうの食べると舌がバカになるよ」
他愛無いおしゃべり。

小腹が空いたら三分間の恋

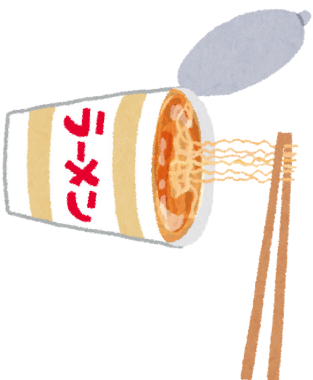
蓋を剥き、容器に湯を注ぐ。平らに戻し、蓋の端を折って固定した。携帯端末の数字がカウントダウンを始める。俺はキッチンの窓から外を見た。
生垣の向こうを女が歩いている。小さな白い顔を寒風にさらしていた。吐く息と黒いタートルネックの妙。
そして、俺のカップ麺が伸びる。



恋は甘いからしょっぱい
食べたいからしょっぱい
夢かまことか まことか夢か
とかく浮世は地獄です

小腹が空いたら

三分間の恋



題名 小腹が空いたら三分間の恋

作者 ドーナツ

発行日 2015年2月28日

連絡先 twitter: @donut_no_ana

tumblr: http://donut-st.tumblr.com/

イラスト: http://www.irasutoya.com/

※自作の twonovel を改竄、再構成しています。